

大阪樟蔭女大 伊海公子

食生活項目と情報源のクロス集計結果 抜粋

目 的：近年、食生活を取りまく環境は様々な要因を含み、それらは日々目まぐるしく変化し、雑誌やテレビからの食べ物や栄養に関する情報が毎日氾濫している。第1報では、ライフステージ別に食べ物や栄養に関する言葉の認知度状況を報告した。本調査研究報告は食に関する情報源の選択と食生活とのかかわり実態の把握・追求を行う。

調査方法：調査は、質問紙調査を用いた。期間は、1991年1,2,5,9月。対象は、関西在住の15歳以上の男女。有効回収率は、53.3% (1,386名)。情報源は8種類(表下参照)。食生活状況の項目を身体、味付けなどの嗜好、食生活の行動・意識、その環境の4つに分類した。

結 果：利用していると回答された情報源は、TVやラジオ54.8%、一般の本や雑誌39.2%、新聞36.5%、専門の本や雑誌32.8%、市場やマーケット14.4%、広告やパンフレット12.1%、その他10.0%、講習会4.5%の順であった。情報源の平均選択個数は、全体2.0、主婦2.6、高齢者2.3、有職女子2.1、女子学生1.9、有職男子1.6、男子学生1.5であった。4分類した食生活項目の中で、行動・意識に関連する項目が情報源との関連が強く、中でも専門の本や雑誌を選択した者に顕著であった。また、有職女子の食べ物や栄養に関する知識を低く自己評価する者ではTVの利用者率が高かった(表)。

項 目 (人数)	全 体 1,386	高 齢 者 41	有 職 男 子 168	有 職 女 子 97	主 婦 386	男 子 学 生 81	女 子 学 生 597
自分で料理を行うかどうか	専		専	専			専
料理が好きかどうか	専		専	専			専
食べ物や栄養への興味の程度	新 専	新 雑	専 TV	新 専	講 雑 TV	雑 TV	専 雑
食べ物や栄養の自己知識評価	新 専	新	専	TV	専 講	専 雑 TV	専
調査日の過去一週間の栄養・料理の本や雑誌の読書の有無	専	専 市 広	専	専	専	専 雑	専
専門講習会等への参加意識	新 専 講	新 講	専 雑 市 講	講	講	新	専
新食品を試す方かどうか		新 広	専 市			TV	

ナ行率区返取<複数回答>( )内は該当者数 CRAMER' V > 0.2 ;  
 新=新聞 (506) 専=専門の本や雑誌 (454) 広=広告やパンフレット (168)  
 講=講習会 (63) 市=市場やマーケット (199) TV=テレビやラジオ (760)  
 雑=一般雑誌類 (543) 他=その他 (138)